

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19401037  
 研究課題名（和文） 中国の民族理論と民族間関係の動態—文化人類学的視点からの検証  
 研究課題名（英文） Theory on Nationality and Dynamics of Inter-Ethnic Relations in  
 China: A Cultural Anthropological Approach  
 研究代表者  
 瀬川 昌久 (SEGAWA MASAHIKA)  
 東北大学・東北アジア研究センター・教授  
 研究者番号：00187832

研究成果の概要（和文）：費孝通の「中華民族多元一体構造論」にみられる民族認識を分析し、その諸特徴を明らかにした。その上で、広東のヤオ族、ショオ族、海南島のリー族、広西の蔗園人、広東、海南、福建、広西の客家、雲南のタイ族、南京の回族、貴州のトン族、ミャオ族、四川のチャン族等の現地調査を実施し、漢族を中心とするネットワークへの周辺民族の接続過程や、近代化の中での国家への組み込み、現代的社会状況の中での民族間関係の変化などを具体的に検証し、費孝通の立論の背景、学術的価値、そして限界について一定の理解に到達した。

研究成果の概要（英文）：By reviewing Xiaotong Fei's vision on Chinese Nationalities, we extracted several important features of his concept 'minzu'. Then, based on fieldworks among Yao and She in Guangdong, Lee in Hainan, Zheyuanren in Guangxi, Dai in Yunnan, Hakka in Guangdong, Hainan, Fujian, and Guangxi, Hui in Nanjing, Dong and Miao in Guizhou, and Qiang in Sichuan, we made case studies on the historical process of minorities' articulation into the network of Han Chinese, the process of their integration into the modern nation state, and the changing pattern of inter-ethnic relation under the China's recent social condition, through which we have reached some understanding on the background, the academic value, and the limits of Fei's vision.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2008年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総計	9,400,000	2,820,000	12,220,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：人文学A・文化人類学, 民俗学

キーワード：中国、少数民族、ethnicity、民族理論、費孝通、中華民族、同化、self-image

## 1. 研究開始当初の背景

中国は漢族と 55 の少数民族からなる多民族国家であり、そうした多民族性の認識は中華

人民共和国の政治ならびに学術の領域において重要な前提となっている。中国の民族学・文化人類学の重鎮である費孝通が提唱し

た「中華民族多元一体構造論」は、こうした多民族国家・中国の歴史的・政治的統合性に、学術的な根拠を付与しようとするものであり、日の中国の民族政策ならびに学術的民族研究の基本路線を規定している理論であるといっても過言ではない。同理論に対しては、現在の中華人民共和国の版図内に暮らす諸民族の政治的統合を学術的に追認しただけの理論として批判がなされることも少なくないが、その多くは政治理念上の批判に止まっており、中国諸民族の歴史的・現代的な実態との詳細な突き合わせによってその学術的な価値を評価する試みは、未だ本格的には行われていないのが現状であり、文化人類学的視点からの検討が求められる。

## 2. 研究の目的

費孝通の「中華民族多元一体構造論」に対し、民族誌データならびに歴史資料による実証的な検証を加え、その学術的価値と限界とを客観的に明らかにすることを目的とする。同時にまた、現在の中国において、この理論の提供する諸民族間関係についての認識枠組みが、どの程度まで現地の行政担当者や地元知識人によって理解され共有されているかを明らかにすることを旨とする。

## 3. 研究の方法

本研究課題の研究遂行の方法は、主として

(A)「中華民族多元一体構造論」の理論的理解の深化と参加者相互間の共通認識の確立を目指した読解作業および討論、(B) 同理論を実証的・批判的に検証・評価するための資料収集、(C) 同理論の現地行政当局者や知識人における受容や評価を探るための資料収集、そして (D) 上記の結果をふまえた総合的な討論からなる。このうち、(A) と (D) に関しては国内での研究集会の開催を行う。また、(B) および (C) に関しては、中国の十数地点での現地調査を実施する。さらに (B) については必要に応じ文献資料の分析も行う。

## 4. 研究成果

研究代表者ならびに6名の連携研究者が、現地調査、文献研究、相互討論を実施し、以下の研究報告論文を完成させた。

- \* 「中華民族多元一体構造論と民族行政の現場における民族認識—広東地域の事例を中心に」／瀬川昌久(1)
- \* 「広西の『蔗園人』の習俗に関する一考察」／塚田 誠之
- \* 「中華民国期、雲南・徳宏州における少数民族教育の変遷—中華民族多元一体論との関連で」／長谷川清
- \* 「都市の再開発と回族コミュニティの変貌—江蘇省南京市の事例から」／西澤治彦

- \* 「文化資源としての「漢族」—貴州省黔东南苗族侗族自治州市の事例から」／曾士才
- \* 「太平天国における不寛容—もう一つの近代ヨーロッパ受容」／菊池秀明
- \* 「客家エスニシティの動態と文化資源」／瀬川昌久(2)
- \* 「民族区域自治」はどのように行われているのか—四川省北川羌族自治县を事例として」／松岡正子
- \* 「中国の国家・民族論の系譜における中華民族多元一体構造論の位置づけについて」／上野稔弘

費孝通の「中華民族多元一体構造論」にみられる民族認識の分析から、その特徴として以下の諸点が抽出できる。

- (1) 民族は、大まかにみれば一定の地域に対応するものと見なし得るという認識。
  - (2) 民族には、中華民族／個々の民族／下位集団という多層的構造があるという認識。
  - (3) 民族は歴史の過程で常に変動し得る非固定的・状況依存的存在であるとの認識。
  - (4) 民族には自在的民族実態(実体)と自覚的民族実態(意識)の両面があるとの認識。
  - (5) 漢族が核となり広域的ネットワークが形成されるという民族融合過程の認識。
  - (6) 民族の動因は多様だが、特に生業や経済に関わる要因は重要であるという認識。
  - (7) 一定地域内における民族間関係の全体構造は持続的なものであるという認識。
- これらから、費の民族認識の非本質主義的特色と、地政学的な思考基盤が明らかとなる。  
〔瀬川昌久(1)論文より〕

広東地域のヤオ族、ショオ族、リー族についての、前近代から今日に至る民族政策のあり方と民族間関係の分析からは、異民族住民側と漢族側の境界領域に立つ土着漢人のような両義的存在の者たちの重要性が明らかとなるとともに、漢族を中核とした広域的社会ネットワーク形成という費孝通モデルと過去の歴史的過程との整合性が確認された。  
〔瀬川昌久(1)論文より〕

1980年代末以降の広東地域のショオ族の民族変更認定プロセスの分析では、そこに見られる地方幹部や現地住民の民族認識と費孝通のそれとの異同について検討し、前者の民族認識がしばしば血統・出自に依拠した一見きわめて本質主義的な性格のものであるにもかかわらず、同時に高度に操作的な性格をもつものであることを明らかにした。  
〔瀬川昌久(1)論文より〕

広西・左右江流域の蔗園人の習俗についての分析からは、蔗園人が漢族としての来歴をもっていること、その「十姉妹」などの習俗は

チワン族の年齢集団からの影響である可能性が高いこと、居住地の環境・民族間関係によっては習俗が非漢族に近づいたり漢族に近づいたりする振幅が見られたことなどが明らかとなり、「民族」の下位集団の動態を深く理解することは「中華民族多元一体構造」を見直す際に重要である点が指摘される。  
〔塚田誠之論文より〕

雲南・徳宏州における中華民国期の少数民族教育についての分析からは、国境地域の少数民族に対する中央集権的な管理体制を強化していく必要が生じる中で、漢族社会への「同化」を前提とした教育が実施され、強制的同化を恐れる少数民族に十分に普及することはなかったことが明らかとなる。このような民国期の政策と現在の中華人民共和国の民族教育の異質性が強調されているが、連続性についても今後検討すべきことが確認される。  
〔長谷川清論文より〕

南京の都市再開発による回族コミュニティの再編についての分析からは、急激な再開発によって集中居住地区が消滅することへの知識人の危機感と、その際に中華民族多元一体論が一つの拠り所として掲げられていることなどが明らかとなる。そして、回民のアイデンティティーの拠り所が、西アジア出自とイスラム教徒であることから、建国後「少数民族」としての戸籍上の出自に徐々にシフトしていることが指摘できる。  
〔西澤治彦論文より〕

太平天国へのキリスト教の与えた影響についての分析からは、ユダヤ・キリスト教思想の不寛容性を取り入れたことが、実際の太平天国の活動に大きな影響を与えたことが指摘される。そして、天京事変が、文化大革命とよく似た構造を持っていることなどから、太平天国とマルクス主義の排他的な情熱は、ヨーロッパ近代からもたらされた負の側面であったことが論じられる。  
〔菊池秀明論文より〕

貴州省黔东南苗族侗族自治州のトン族、ミャオ族、漢族等の文化資源と民族的アイデンティティーに関する分析からは、宗祠や伝統行事などの「漢文化」が文化資源として重要視され保存されつつも、住民の民族的帰属は多様であることが明らかにされる。そして、費孝通が西南中国の民族間関係を捉えて呼んだ「我中有你、你中有我」は、貴州におけるこの錯綜した状況の中にまさに見て取ることができる。  
〔曾士才論文より〕

四川省北川羌族自治県のチャン族における民族文化の復興に関する分析からは、1980年代以降の民族籍回復運動を経て、2000年以降チャン族の文化要が強調されるようになり、2008年の汶川地震後の復興の中でさらにそれが強化されつつあることが明らかにされている。しかし、こうした民族文化復興の主体となっているのがチャン族自身よりも漢族系の住民であり、また地方政府主導の事業となる傾向があることが指摘される。  
〔松岡正子論文より〕

民国期の孫文や蒋介石の民族認識、また中華人民共和国成立以降の民族政策の変遷の中での「中華民族多元一体論」の位置づけと、同理論発表後に行われた中国国内の他の研究者による同理論の評価・解説や、近年の教育現場での同理論の取り上げられ方などの分析からは、費孝通の理論を拡大解釈する傾向が顕著であり、一部には中国の国境線を超越した議論など、明らかに費孝通の主張を大きく逸脱した議論も見受けられることが明らかとなる。  
〔上野稔弘論文より〕

以上から、費孝通の「中華民族多元一体構造論」の民族認識は、少なくとも今回の研究課題が直接の考察範囲とした中国南部の歴史的な民族動態を考える限り、個々の地域社会内部で展開されてきた具体的な過程をうまく説明し得る側面をもっており、その意味で十分な学術的な価値を有していることが確認される。他方、同時にそれが学術的見解の域を脱して政治的意図に結びついた拡大解釈をほどこされやすい側面もまた確認される。「多元一体構造」の持続性に関しては、地域文化や民族文化の多様性に価値を見出し、学術的興味や産業開発の対象とする傾向が顕著となった改革開放政策以降の状況は、一見「多元一体構造」の持続を予想する費孝通の見方を支持するものであるようにも見える。しかし、それは大局的にみて20世紀後半期的なパラダイムの中でのこととも言え、費孝通が予測するように文化的・民族的多様性に対する価値付与が引き続きなされ得るのか、あるいはすべて一元化へ向かう「途上」に過ぎないのかは、より長期的な視野での検討が必要である。

なお、これらの研究成果報告論文は、小冊子として印刷し関係者に配布する他、1～2年のブラッシュアップ作業を経た後、論文集として公開出版する予定である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 17 件)

- (1) 瀬川 昌久「中国、台湾、日本の学術書ならびに一般書における「客家」のイメージ形成過程の研究」、『東北アジア研究』、査読有、14 号、2010、97-121 頁。
- (2) 塚田 誠之「中国広西壮(チワン)族とベトナム・ムン族との交流とイメージ」、塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』、査読有、2010、157-182 頁。
- (3) 長谷川 清「宗教互動と地域性的再構成—徳宏地区的仏教社会」塚田誠之・何明編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』、査読有、2010、157-182 頁。
- (4) 長谷川 清「人の移動と宗教の浸透、ネットワークの諸相—雲南・ビルマルートの事例」、『民博通信』No.126、査読有、2009、7-9 頁。
- (5) 塚田 誠之「中国広西壮族と越南民族的交流」、塚田誠之・何明編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』、査読有、2010、157-182 頁。
- (6) 瀬川 昌久「海南島黎族の事例—清末から現在に至る黎族と漢族諸集団の相互関係」、岡洋樹編『内なる他者—周辺民族の自己認識のなかの「中国」』、査読有、2009、53-76 頁。
- (7) 塚田 誠之「広西における『改良風俗』政策について—近現代中国における文化政策の一齣」、韓敏編『革命の実践と表象—現代中国への人類学的アプローチ』、査読有、2009、157-182 頁。
- (8) 長谷川 清「双語文教育と民族的アイデンティティ—中国雲南省西双版納、タイ族の事例」、『言語と文化』(文教大学言語文化研究所)、査読有、第 21 号、2009、60-88 頁。
- (9) 長谷川 清「雲南タイ族の事例—中華世界における『宗教』と『民族』」、岡洋樹編『内なる他者—周辺民族の自己認識のなかの「中国」』、査読有、2009、11-37 頁。
- (10) 菊池 秀明「広西における上帝会の発展と金田団營」、国際基督教大学アジア文化研究所編『アジア文化研究』、査読有、35 号、2009、1-27 頁。
- (11) 松岡 正子「四川省俄巫ナシ族の兄弟共妻型婚姻」、『愛知大学国際問題研究所紀要』、査読無、132 号、2008、227-244 頁。
- (12) 瀬川 昌久「南雄珠璣巷をめぐる広東ローカリズムと中華ナショナリズム」、塚田誠之編『民族表象のポリテクス—中国南部の人類学・歴史学的研究』、査読有、2008、263-296 頁。
- (13) 長谷川 清「都市のなかの民族表象—西双版納、景洪市における『文化』の政治学」、塚田誠之編『民族表象のポリテクス—中

国南部の人類学・歴史学的研究』、査読有、2008、128-156 頁。

- (14) 塚田 誠之「海南島における洗夫人とその信仰をめぐる表象と変遷」、塚田誠之編『民族表象のポリテクス—中国南部の人類学・歴史学的研究』、査読有、2008、157-188 頁。
- (15) 菊池 秀明「洪秀全の挫折と上帝教—档案史料からみた太平天国前夜の広東社会」、学習院大学東洋文化研究所編『東洋文化研究』、査読有、10 号、2008、137-171 頁。
- (16) 塚田 誠之「中国壮族と越南農族的民族関係と交流」、『広西民族大学学報』(哲学社会科学版)、査読有、第 29 卷第 5 期、2008、2-8 頁。
- (17) 上野 稔弘「台湾・国史館所蔵の辺疆民族関係史料について」、『東北アジア研究』、査読有、12 号、2008、143-154 頁。

〔学会発表〕(計 8 件)

- (1) 松岡 正子「羌族、川西南蔵族、嘉絨蔵族、普米族、納西族的“祭山”—祭山的系譜」、国際人類学与民俗学联合会第 16 届大会、雲南大学(中国・昆明)、2009 年 7 月 28 日。
- (2) 松岡 正子「中国汶川地震後の民族地区の復興状況」、災害対応研究会、大阪ガスビル(日本・大阪)、2009 年 10 月 28 日。
- (3) 松岡 正子「5・12 汶川地震後羌族民族文化資源の重建と創構—“羌文化”是怎样被創構的」、国立台北芸術大学文化資源シンポジウム、国立台北芸術大学(台湾・台北)、2009 年 12 月 4 日。
- (4) 曾 士才「現代中国に生きる少数民族のアイデンティティと民族文化のゆくえ—貴州省ミャオ族を例にして」、日本現代中国学会 第 59 回全国大会特別分科会報告、神戸大学、2009 年 10 月 18 日。
- (5) 塚田 誠之「広西のチワン族の文化資源—その形成と地域性」、国立民族学博物館共同研究「民族文化資源の生成と変貌—華南地域を中心とした歴史学・人類学的研究」、国立民族学博物館、2009 年度研究会、2009 年 7 月 4 日。
- (6) 塚田 誠之「中国広西壮(チワン)族とベトナム諸民族の交流」、『華僑華人学会』2009 年第 1 回研究会、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科、2009 年 4 月 5 日。
- (7) 松岡 正子「汶川地震後の羌族の暮らしと民族文化資源の重建」、第 2 回日中科学フォーラム「汶川地震と防災科学技術」、2009 年 3 月 9 日、中国北京 The Lake View Hotel。
- (8) 塚田 誠之「中国広西壮族と越南民族的交流」、国際シンポジウム「中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—」、2010 年 10 月 28-30 日、雲南大学(中国・昆明)。

遷徙、交流和文化動態」(人間文化研究機構連携研究「交流と表象」班・科研(代表:塚田誠之)・雲南大学民族研究院合同開催)、2008年9月2日、中国雲南省昆明市雲南大学伍馬瑶人類学博物館教学楼。

〔図書〕(計6件)

- (1)李紹明・松岡正子主編、風響社、『四川のチャン族—汶川地震をのりこえて(1950—2009)』、2010年、416頁。
- (2)塚田誠之・何明編『中国辺境民族的遷徙流動与文化動態』、雲南人民出版社、458頁、2009年。
- (3)塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』有志舎、2010年、370頁。
- (4)費孝通編著・西澤治彦他訳、風響社、『中華民族の多元一体構造』、2009、432頁。
- (5)菊池秀明著、汲古書院、『清代中国南部の社会変容と太平天国』、2008、344頁。
- (6)塚田誠之編、風響社、『民族表象のポリテクス—中国南部の人類学・歴史学的研究』、2008、432頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

瀬川 昌久 (SEGAWA MASAHISA)  
東北大学・東北アジア研究センター・教授  
研究者番号: 00187832

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

西澤 治彦 (NISHIZAWA HARUHIKO)  
武蔵大学・人文学部・教授  
研究者番号: 80218148

塚田 誠之 (TSUKADA SHIGEYUKI)  
国立民族学博物館・先端民族学研究部・教授

研究者番号: 00207333

曾 士才 (SO SHISAI)

法政大学・国際文化学部・教授

研究者番号: 10196991

長谷川 清 (HASEGAWA KIYOSHI)

文教大学・文学部・教授

研究者番号: 70208479

松岡 正子 (MATSUOKA MASAKO)

愛知大学・現代中国学部・教授

研究者番号: 70410561

菊池 秀明 (KIKUCHI HIDEAKI)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号: 20257588

上野 稔弘 (UENO TOSHIHIRO)

東北大学・東北アジア研究センター・准教授

研究者番号: 10333907